

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070100296		
法人名	社会福祉法人 浩和会		
事業所名(ユニット名)	竹の里園		
所在地	和歌山県和歌山市明王寺3番地の1		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jgyvsvoCd=3070100296-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の郷公園に隣接した自然豊かな環境の下、四季折々の行事を取り入れながらゆったりと生活して頂いており、併設の診療所や特養の看護師との医療連携が出来ている。例年は地域住民に開かれた施設作りのため併設の特養中心に盛大な夏祭りを開催したり、また地域の芸能大会への参加そしてボランティア訪問や地域の児童・園児との交流の機会を設けていたが、コロナ禍にて交流を深めることが思う様に出来ていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山やミカン畑に囲まれ桜以外にも季節の花を鑑賞することができる。少し奥まで行くと四季の郷公園があり、コロナ禍以前は外出したり地元の幼稚園との交流も行き、地域との関係も深められていた。静かな環境で自然を感じられる場所であり、ハザードマップでも津波や浸水の心配もない場所である。事業所自体は広くゆったりとできる空間で入居者が心地よく過ごせるよう配慮がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「利用者の立場に立ったサービス」を心掛け玄関とスタッフルームに掲示し管理者と職員は笑顔で暮らして頂けるよう支援している。	理念を事業所入り口の目につきやすい場所に掲示している。また、前回の調査後から理念を唱和するなどの新たな取り組みを行い、理念の普及に努めた。	
(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	例年は併設施設との合同夏祭りや老人会主催芸能発表会への参加、そして地域の幼稚園との交流会等を行っていたが、コロナ禍にあつて日常的な交流は行っていない。	コロナ禍の影響に伴い、思い描いたような地域関係は築けていないが、感染状況に注意を払いながら、地域に向けた活動の再開時期を見計らっている状況である。	
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて当法人の施設を提供したサロン活動にて地域の人々と利用者との交流を図っていたが、コロナ禍に於いて中止している。		
(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあつて2ヶ月に1度の運営推進会議は文書による報告で代替している。その為話し合いが行えず意見がなかなか拾い上げられない状況である。	電話や書面等による意見聴取に取り組んだが意見も十分に得られず、事業活動の報告中心になってしまった。	電話やリモート機能を活用するなど、会議方法の工夫を行うとともに、会議録も詳細に記載するよう改善されることを期待する。
(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは直接窓口にて、また特養の事務職員を通じ情報を得ている。例年は運営推進会議にて包括センターの職員より情報を得ていたが、コロナ禍の状況で充分には行っていない。	コロナ禍の影響に伴い、対面での連携機会は減ったが、電話等では連絡を図るとともに、必要に応じ市町村に出向き関係性を保つよう努力されている。	
(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束に関する研修に出席し知識の共有を図っていたが、コロナ禍の影響で研修開催も儘ならない状況である。しかし利用者の方が例え玄関に行っても無理に止めず様子を見守り自由な暮らしを支援している	事業所の出入り口は施錠していない。屋外に出ようとする入居者がいる場合は、呼び鈴で職員に伝えるようにしている。居室はセンサーマットを使用のうえ、転倒リスクの高い入居者にもすぐに駆け付けられるようにしている。	日中・夜間の行動パターンを把握しこまめな巡回にすることで、センサーマットに頼ることのない処遇に代わっていけばと期待する。
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の会議(虐待防止委員会)に委員が出席し他の職員と知識を共有したり、法人全職員への「虐待について」のアンケートを実施するなどして虐待防止に努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している利用者が居る為、職員も関心を持っている。		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定の際には御家族に十分な説明を行い理解して頂いている。		
(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は運営推進会議の席上で意見を聞くことが出来たが、現在はコロナ禍にて行えていない。しかし御家族に電話連絡した際などに意見や要望は無いかなど尋ねている。	コロナ禍の影響に伴い、直接家族と面会する機会が減り、電話等で家族の意見を聴くようにしているがあまり意見はでていない。家族宛の報告書がきっかけとなり意見を聴くことで業務改善にもつなげられている。	
(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や毎朝の申し送り時などで意見や提案を聞き日々話し合いをしている。	月1回のグループホーム会議で出された意見を掲示し、職員に周知を図っている。歩行の機会を増やそうという職員意見に対し、車いすではなく歩行器を購入した。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ職員の向上心を育成している。また安全衛生委員会を中心に職員のストレスチェックやアンケートを行い職員の意見にも傾聴するよう努めている。		
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には年間研修計画があり例年だと2ヶ月に1度職員全体研修を行っていた。コロナ禍にて中止していた。その職員研修会も再開している。また法人外の研修もZOOMにても行っていくよう進めている。		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と交流する機会を設け情報を得てサービスの質の向上に努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで御本人及び御家族との面識の機会をつくり、居宅での生活状況・趣味・好き嫌い等出来るだけ把握しサービスの開始に備えている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時や入所前の面接時に御家族の要望をしっかりと聞き、入所後のケアに活かしている。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者及びその御家族にとってグループホームでの生活が最適であるかを御家族やケアマネジャーともよく相談し決定している。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物を干したり畳んだり、食事のオンボリ準備やお茶を入れて頂くなど毎日の生活を通し信頼関係を築いている。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と常に連絡を取り合い出来るだけ来園して頂けるよう協力をお願いしているが、コロナ禍で例年通りには行えていない。		
(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響もあり、また御利用者の入居期間が長期になるにつれ馴染みの人や場所との関係が途切れがちになっており支援の難しさを思う。	コロナ禍で面会も十分に行えなかったが、感染状況に合わせ面会機会も増やすよう取り組んでいる。また、買い物をきっかけとした外出機会を設け、地域との関係性も維持できるよう工夫している。	
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同テーブルで過ごす御利用者同士が話をしたり一緒に洗濯物を畳んだり、また職員が仲に入るなどして日常生活の中でお互い助けあえるよう支援している。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所され特養に入所された方について、転入先の職員と情報共有し直接的・間接的に支援関係を続けている。		
(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務で御利用者の方々に接した際に、また職員間で情報を共有し御本人の思いや意向の把握に努めている。	日常の会話を通じ、本人の意向や思いを把握することに努めている。また、情報共有のため連絡ノートも活用している。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人及び御家族そして入所以前に関わった事業所よりも情報を収集している。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	独自の一覧表に1日の過ごし方を記入・活用し、申し送り時の連絡・報告で現状を把握するよう努めている。		
(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面接時に話し合った内容や職員間で随時話し合っている内容を計画に反映している。	本人・家族の意向を確認したうえで介護計画を作成している。計画書の同意については、家族と直接会い説明を行い同意を得るようにしている。	
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行い日中・夜間に分けた介護記録を作成し、職員間で情報共有しながら日々支援に活用している。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時併設の事業所と情報交換を行い、グループホームの利用者の方々が活用できる事柄を日々の生活の中に取り入れている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域の公民館活動を行っている方々との交流や地域の老人会主催の芸能大会に参加するなどしているが、コロナ禍の影響で出来ていない。		
(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設されている診療所医師により常に健康管理して貰っている。また希望により入所以前のかかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。	身体状態に合わせ、適宜往診を受けられるよう体制が整えられている。精神科や眼科受診は、基本は家族送迎により行われ、歯科については訪問により対応できるようになっている。	
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設された特養の看護職員に御利用者の体調等を随時報告・相談し適切な助言や指示を受けることができる。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療病院契約を締結しているので御家族の協力を得てスムーズに入院の支援が出来る。また退院時には御家族や医療機関等と情報を共有し連携を図っている。		
(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについてグループホーム入居時には説明しており内容を理解して貰っている。御本人の状態に合わせて都度話し合っ方針を共有し関係者と共に支援に取り組んでいる。	併設施設の看護師の協力もあり、事業所で看取ったケースもある。心身の変化に伴い特別養護老人ホーム入所を照会したりもしている。	
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で急変時の対応方法や研修を行い事故発生に備えている。		
(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に昼夜を想定した消防・防災避難訓練を行っている。備蓄品についても3日分準備しており、他の事業者や地域の消防団との協力体制もできている。	事業継続計画(BCP)の作成をきっかけに、必要な備品や停電時の対応についても見直しを図っている。消防訓練については、昼夜に分けて設定し実施している。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しその人の立場に立った思いやりある言葉かけをし対応するよう努めている。職員間もお互い注意し合うようにしている。	入居者の個別ファイルについては、鍵のある棚に保管している。トイレ誘導の際は「食事の前だから」というようなさりげない理由付けをして実践している。入居者への呼びかけは下の名前にさん付けで呼ぶようにしている。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつメニューを一緒に考えたり、着る洋服を出来るだけ自己決定して頂けるよう働きかけている。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援をしたいと努めているが、認知症の進行や加齢で実際に一人一人のペースに合わせる事が年々難しくなっている。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容師による理美容を利用している。また同じ衣類の着用にならないよう職員が衣類選びをアドバイスしたり、気分転換を兼ねたおしゃれができるよう支援している。		
(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり出来るだけ利用者と職員と一緒に準備・片付けするようにしている。	配膳・下膳も内容によっては入居者自身で取り組めるような援助を考えているが、心身状態的に対応できる入居者は減ってきている。飲酒する入居者については、今はいないが以前は対応できていた。	コロナ禍で外出機会が減っている分、おやつ作り等の時間に充てる等の工夫を行い食への関わりの時間を増やしてほしい。
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方には必要に応じて様々な種類の飲み物を提供して水分摂取を促している。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝紅茶嗽と就寝前の義歯洗浄を励行している。朝と就寝前の歯磨き時には必ず見守りしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し一人一人の排泄パターンを把握し、排泄の意思表示を出来ない方も含めトイレ誘導を行っている。	24時間の排泄チェック表で排泄リズムを把握し、日々の援助につなげている。トイレ誘導を増やすことで、紙おむつでの排泄機会が減るよう取り組みがなされている。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使用するよう心掛けたり、コーヒー・経口補水液・好きな飲み物も提供し水分補給に努めている。		
(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本各日に(週に3回)入浴して頂いている。入浴を拒む時には無理強いせず、様子を見て再度声掛けするなど個々に沿った支援をしている。	週3回午後の入浴を基本に実施している。入居者の気がのらない場合は時間帯の変更等で入浴につなげているが、無理強いはしていない。柚子や菖蒲湯等を通じ季節を感じる取り組みも行われている。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由にリビングのソファや畳の間で寛いだり、居室で午睡を勧める等の支援を行っている。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の投薬一覧表を作成しており職員はいつでもそれを見る事が出来る。服用する薬の袋に日付・氏名・時を職員が記入・管理し服薬介助及び見守りを行っている。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物置、お茶入れ、おしぼりの準備等出来る方には行って頂いている。利用者が嗜好品を希望した時には様子を見ながら随時提供している。		
(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	例年は日常の買物に同行して頂くようにしたり施設での催しや地域での行事に参加していたが、コロナ禍の影響で思うような支援が行えていない。	買い物やエントランスでの日向ぼっこ等を通じ、屋外の空気に触れられるよう取り組みを行っている。コロナ禍の影響に伴い、入居者の安全第一を考え、長時間や長距離の外出支援は行えていない。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の希望(思いやり)で御利用者にお金を所持して頂き、安心感を持って過ごす事が出来るよう支援している。職員が財布の中(金額・お札の枚数)を随時見て管理している。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者の「電話をかけたい」との希望がある時には、いつでもスタッフルームから電話出来るよう支援している。		
(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が広く明るく快適に過ごせるになっている。また空気の入替え、エアコンの調節等、職員が御利用者の様子を見ながら居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	事業所は非常に広いため、場所を変えゆったりと過ごすこともできる。一部天井から光が差し込む空間もあり自然な明るさも感じる。季節に応じた植物や飾りつけがされている。浴室も3人が一度に入れるスペースと個浴スペースが確保されている。	
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングホールがあり気の合った御利用者同士や、好きな時に好きな場所で自由に過ごして頂いている。		
(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物や好みの物を自由に持って来て頂いており、落ち着いて過ごせる居室づくりをしている。	ドアの横に車いすでも入れる洗面と奥には押入れがあり広すぎず狭すぎずの居室空間となっている。入所時には、使い慣れた物や好みの物を持参いただくなど、本人にとって居心地のよい空間になるよう配慮がなされている。	
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物は安全の為室内で御利用者と一緒に干し、職員が屋外に干すようにしている。		